



令和 2 年度

米小 米小学校だより



※講師：金澤さんの力作

2020年11月17日(火)

Ⅱ 第100号

発行者：米小学校長

小峰 光

5年生「なしかしセカンドスクール」を終えて

学びの連続性と子どもの成長について改めて感じる



5年生34名のセカンドスクールが、11/9～12まで国立那須甲子青少年の家を会場に、13日は本校講堂で行われました。

今年のテーマは「進(しん)～仲間と助け合い、心を豊かに成長させよう!」です。コロナ禍の中、手洗い、消毒の徹底、マスクの着用、ソーシャルディスタンスを図るなど国立那須甲子青少年自然の家と学校と家庭で感染防止策を講じながらの実施となりました。

今年度も本校のセカンドスクールプログラムは、

「子どもたちが五感を通して『自然』を感じることを念頭において作成されています。

保護者の皆様にご協力をいただきましたが、3泊5日を通して、子どもたちにとって、人と人との関わりの中で、連続した学びが生まれ、学びの深まりがあり、心に響く事業となったと感じております。詳細は、日々、ホームページで紹介をさせていただいた通りですが、要点を絞って記させていただきます。

◆第1日目◆開講式(於:那須平成の森)



国立那須甲子青少年自然の家：金子豊所長様に「那須平成の森」にご移動いただき、那須平成の森でのセカンドスクール開講式を行いました。金子所長さんには、「歓迎の言葉」をいただきました。校長より、①なすかしの自然を体いっぱい五感を通して感じて欲しい。②なすかしの自然の中で学校と異なる環境を生かしながらリフレッシュした学びをして欲しい。③そして、仲間、支援スタッフ、なすかしの所員の方と積極的なコミュニケーションを図り、心が通じ合う生活をして欲しい。と子どもたちに話しました。結びに、金子所長さんへ「児童代表あいさつ」を鈴木さんが行いました。

◆第1日目◆「那須平成の森」でのインタープリターによる自然界の学習



子どもたちに、「自然」を五感を通して学んでもらおうと今年度は丸1日機会を与えました。インタープリター3名の皆さんが子どもたちを自然の中での学びの世界に誘いました。

午前中は、「那須平成の森」ができるまで「幻の滝」と言われていた「駒止めの滝」まで、散策しながら、自然を

学びました。滝壺が「エメラルドグリーン」に見え、絶景でした。午後は、「那須平成の森」の自然を沢山学びました。地形、木々、生き物、匂い、鳥のさえずり等々。定点カメラが捕らえた熊、狐、イノシシの様子を写真で見せていただき、カメラで捕らえられたということは、実際に生息していることも認識できました。

～なすかしの森タイムより～



初日の晩は、「キャンドルファイヤー」がプレイホールでソーシャルディスタンスを考ながら行われました。担当の増田先生が盛り上げてくださり、一人一人にこの「セカンドスクールにかかる意気込み」を考えさせ、最後に班代表が発表をしたそうです。思いのこもった発表になっていたそうです。支援ボランティアスタッフからも激励の言葉が子どもたちへ伝えられました。・・・こうやって、セカンドスクールでの「心と心の通い合い」が沢山生まれるように演出されました。

◆第2日目◆5校共通プログラム:三菱製紙(株)エコシステムアカデミーの皆さん指導による「森林のはたらき」の学習



社会科「私たちの生活と森林」の学習を行いました。エコシステムアカデミー校長：板倉寛次様も来所され、長田雅一室長様はじめエコアカデミーの皆様と共に、西郷村生涯学習課で行っている「単位制総合大学」の皆様にも7名協力いただきました。

この授業では、畠山重篤さんの「森は海の恋人」でも知られる森が生み出す植物性プランクトンが牡蠣を大きく育てていることなどを含めて「森林のはたらき」についてお話をいただきました。

また、その森林は①伐ってはいけない森林、②伐ってもよい森林、③伐らなければならない森林の3つに分けられること。その伐ってはいけない森林は全体の10%位しか

存在しないことも学びました。初日に、その伐ってはいけない森林「那須御用地にある那須平成の森」で子どもたちは五感を使った自然界の学習をしています。

次に、木材の40%はチップ材からパルプが作られ、繊維をほぐして紙になることを学びました。紙には、繊維が長く強度のある「針葉樹」がもとなる紙と、繊維が短く、印刷がし易く、つるつ



るしている「広葉樹」がもとなる紙の2種類あるそうです。その2種類を講義後にエコアカデミーの皆さんと村単位制総合大学の皆さんの指導のもと、「500gの水で5gのはがき作り」にチャレンジしました。

◆第3日目◆…5校共通プログラム:「流れる水のはたらき」で堀川上流の様子を学習



理科学習で「流れる水には土地を浸食したり、石や土などを運搬したり、堆積させたりする働きがあることがわかる」単元があります。この単元をセカンドスクールで堀川上流を沢歩きハイキングをしながら学んでいくプログラムです。

講師として三村正様、菊池清二様をお迎えし、堀川の上流のポイントで浸食、運搬、堆積等が行われている箇所を講師の先生から指導いただきながら、「百聞は一見にしかず」



の学習をしました。導入とまとめの学習は担任が、座学で行いました。→ → → → → → → →

◆第4日目◆…「なすかしを味わう」(※なすかしの山々で収穫できるものを食材にピザ作り)学習(家庭科)



このプログラム「なすかしを味わう」は、なすかしの自然を「味

覚」を通して感じてもらうものです。実際には、放射線量等の問題で山に生息しているキノコや木々の実などを採って使用することはできませんが、なすかしの山々に生息する食材をなすかしレストランの協力を得て揃えていただくため、担任もなすかしの山々に生息する食材でピザとして食しておいしい食材を考えました。それが、今回トッピングで使用した「しめじ」「まいたけ」「くり」「たけのこ」です。他にやはり無くてはならない「ベーコン」「チーズ」を加えました。これらの食材を使って、「世界でたった一枚のピザ」づくりを行い、食しました。ピザ作りの前には、なすかしレストラン佐藤店長より「5大栄養素」の話をいただき健康を維持するための栄養の摂り方について指導いただきました。

～なすかしの森タイムより～



朝7時にピロティーに子どもたちが揃いました。すると「米小学校の皆さん、おはようございます。日頃から英語に力を入れている米小学校の皆さんのために、今日はスペシャルバージョンで『ラジオ体操第一』を行います。」とアナウンスが流れました。そして、始まりました。すると聞こえてきました「Radio Exercise No.1…」英語バージョンのラジオ体操第一でした。子どもたちは、ニコニコしながら楽しくできました。これは、那須甲子の職員さんの配慮です。那須甲子の職員さん皆さんが関わってくださいました。

◆第5日目(本校講堂)◆…森林学習のまとめ「匠の技」

今年度のセカンドスクール「子どもたちが五感を通して自然を感じる『学びの連続性を求めての学習』」の結びのプログラムは、「匠の技」です。木材の美しさ、優美さを表現している「組子細工」をまとめの学習としました。講師は、かなざわ建具店主：金澤良一様(矢祭町)です。



◇カンナの妙技から木を学ぶ◇

子どもたちは、この4日間、自然と触れ合う中で「立木」を見て観察してきました。その木には、上下、表(外まる)と裏(内まる)があることを教えていただきました。今回は、長野県・静岡県と隣接する奥三河地方の温暖な気候と豊かな土壌に恵まれて育った「三河檜」を持参くださり、木を五感を通して感じさせてくださいました。金澤さんは、三河檜の「道管」を削る2ミクロンの妙技を披露くださり「2ミクロンに削るからこそ、三河檜の芳醇な香りが味わえる」と教えてくださいました。子どもたちはその芳醇な香りを嗅ぎながら、「わあ、いい香り。」「凄く、匂います。」「木って、こんなにいい香りなんですね。」等々つぶやき、興奮していました。また、2ミクロンに削ると、削られた木材の面が「鏡」になることも、削られた面に触れさせていただきながら、見せていただきました。本当に、影が無く、鏡のように置かれたチップが写っていました。驚きました。



◇組子細工体験◇

繊細な棧が幾重にも重なり合うことで、さまざまな紋様を描き出す日本の伝統技術「組子」。くぎや金具を

つかわず、木の溝や角度をつけることで組んでいきます。日本の伝統工芸の一つです。さて、金澤さんは、子どもたちのために「きいこつなぎ」を学ばせてくださいました。34mm×9mm×2mmのチップ60枚と15.5mm×9mm×2mmのチップ24枚を組み合わせて組子細工のコースター作成をしました。金澤さんより、はじめに「自由に作ってごらん！」と子どもたちに振り、子どもたちは、84チップを組み合わせで作成しました。考えながら、苦心して作成した後で、もう一つのチップを使って、この組子の「規則性」について教えてくださいました。この組子の規則性に気づけば短時間で作ることができるということです。実際に、規則性に沿って作成するとあっという間にできました。ここでも「気づく」ことの大切さを知りました。規則性については、保護者のみなさんから子どもたちに聞いてみてください。このように価値ある学びとなりました。

◆閉講式(本校講堂)◆



3泊5日全ての活動を終えて、閉講式を本校講堂に国立那須甲子青少年自然の家：金子豊所長様をお迎えして行いました。各学級の代表児童に修了証書が授与されました。引き続き、教育支援ボランティアの3名の皆さんにも修了証書が授与されました。

閉講に当たって、金子所長様より、いくつかのプログラムを子どもたちと共に経験しての感想を含めながら、子どもたちの頑張りと成長についてお話をいただきました。

次に校長より、子どもたちへは、セカンドスクールの修了証書はやり遂げたものだけが手にできる証であること。この証を「やり遂げたという自信」へと変え、今後の生活をして行って欲しいという願いを話しました。

また、金子所長様はじめ、本セカンドスクール関わってくださった増田先生、高橋先生、赤坂先生、沖津先生、松坂先生へ、子どもの成長のためにご尽力いただいたことへのお礼を述べさせていただきました。

結びに支援スタッフの赤坂先生、松坂先生、沖津先生よりお話をいただきました。各先生方とも、子どもたちと生活を共にした5日間を振り返り、胸に込み上げるものを抑えつつ、思いや子どもたちへのメッセージを語っていただきました。



閉講式を終えて、支援スタッフへの「ほどこされたら、ほどこしかえす。恩返し!」の始まりです。



昨年までは、私たちが見送られて学校へ戻ってきました。今年は、私たちのセカンドスクールを支えてくださった支援スタッフ3名の皆さん、那須甲子青少年自然の家の所長様はじめ職員の皆さんをお見送りすることになりました。



私たちの成長のために親身になり支えてくださった支援スタッフ、職員の皆さんから

受けた「心」にどう応えようか考えました。それが「恩返し!」の様子です。心が通じてくれればありがたいです。



長々と記しましたが、今年度のセカンドスクールはこのように展開されました。このセカンドスクールには多くの皆さんに関わっていただき、実施できていることに感謝です。